

～議員になるとは～

滋賀大学経済学部で講義を行いました



上杉 正敏議員
(3期目)

和田 一繁議員
(2期目)

堀口 達也議員
(1期目)

今回の講義において、私は議員のやりがいや日常の様子、自身のビジョン、実際に市民のためになった事例等について話をしました。実際に市民のためになった事例として、一般市民からだけではなく現場からも要望があり、実際に問題の解決に繋げることができた「消防救急体制が1班分増強された事例」を紹介しました。

学生の皆さんは真剣に耳を傾けていただき、わからないことや気になること等について、都度、熱のある質問を頂戴しました。

私からは、選挙時の公約から、観光産業の活性化、誘客増加についてお話しました。世界遺産登録を目指す彦根城を核とする文化財の活用、ロケ誘致など新たな映像産業の創出など、可視化に向けた活動をわかりやすく報告しました。

学生の皆さんからは、身近にある彦根城や観光施策に対して、学生目線で感じる課題や提案について発言がありました。若い人たちの声もしっかり行政に反映していかなくてはならないと改めて感じた講義でした。

今回は、私が政治家になったきっかけ、オランダでの生活のこと、選挙や議会の仕組み、議員としての1日のスケジュールや仕事内容、福祉病院教育常任委員会での取組、会派活動や地域での要望活動等について、率直に学生の皆さんにお話ししました。

若者の投票率向上も大切ですが、それ以上に若者の政治参加が必要です。今回の講義を受講した学生が将来、「私も政治家になりたい」と思う1つのきっかけになれば嬉しいです。

滋賀大学経済学部と彦根市議会との連携および協力に関する協定に基づく事業の一環として、令和2年10月27日に「議員になるとは」というテーマで3名の議員が講義に参加しました。

コロナ禍での開催となったため、対面およびオンライン方式で実施いただきました。

